

音楽研究会 部会記録					
日時	令和3年10月6日(水) 15:30～16:45				
部会名	鑑賞部会			主任	澤 由美(日吉南小)
参加者数	16名(オンライン)	司会	深田 真人(大道小)	記録	八鍬美奈子(長津田小)
鑑賞部会テーマ 音楽作品や演奏表現のよさ、美しさを自ら感じ取り、共に考え、聴き味わう鑑賞活動					
(研究内容) 研究授業の指導案検討①					
提案者：大口台小学校 南部 麻実 先生					
○教材 「ノルウェー舞曲 第2番」					
・曲との出会わせ方を吟味し、全曲聴かせて、「どんな感じかな」と発問をすることを想定した。 ・前回の事前検討で、指導者が授業において大切にしたいことと児童の実態をすり合わせる必要が大切であることが分かった。					
○協議					
研究内容① 思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を視点にした楽曲分析、教材研究。					
・音色という要素には焦点をあてないが、オーボエの音色にはふれないのか。 →要素を焦点化しているが、変化をとらえる手がかり、旋律をとらえる手がかりとしてふれてよい。この楽曲の構成をとらえたり、旋律をとらえたりするために、必要な要素であるかもしれない。 ・焦点化していない要素についての気付きや発言をどう整理するか、想定をしておくことが必要。 →焦点化した要素については必ずふれ、内容をおさえる。以外の要素について子どもたちは気付くことが予想されるため、そこは整理する必要がある。					
研究内容② 教師の手立て、働きかけなどについての研究					
【1時と2時のつながりをつくる指導計画】					
・指導計画で、1時は感受、2時は知覚、と分けることが、子どもの思考の流れにそっているといえるか疑問である。 →1時は児童の気付きを<u>発問</u>で感受の方向に導きつつ、授業の終盤では、知覚にもふれる。児童から両方出てくることが想定されるが、その場合は、指導者が板書等で整理することが大切である。 →2時は知覚と結び付けることに重点をおくとよい。 →それぞれの感受を共有すること、知覚を結び付けること、に加えて、曲のよさ（おもしろさ）を考えさせることを本時の学習活動とするために、本時の後半の流れを再考する。 ・1時は、曲と出会い、身体表現を伴いながら楽曲を聴いて旋律をとらえたり、構成をとらえたりする活動にたっぷり時間をとりたい。 →活動をして聴き慣れる、気付く。その後に、話したり、学習カードに記述したりする。という1時間の流れが、子どもの思考の流れにそっている。					

【子ども同士のやりとりを生む学習活動】

- ・ペアトークを必要に応じて、効果的に取り入れる必要があるのではないか。
 - コロナ禍であるため、3名以上のグループは難しい現状にあるが、2名でやりとりをする活動でも、自信をもって発言するための手立てとなり得る。
 - 発言力のある子どもだけでなく、他の子の考えをクローズアップするきっかけになることもある。
 - 2時間の中で、ペアトークを入れる場面を吟味し、取り入れる。

【曲との出会いの演出】

- ・曲との出会わせ方が大切である。
 - 旋律が2つある、と予め伝える方法もある。
 - 授業者が考えている「どんな感じかな」という発問は、子どもたちのさまざまな反応が想定されるが、方向性を示すために、もう少し絞り込んだ発問にしてもよいのではないか。

○指導講評 東希望ヶ丘小学校 校長 村上 雅基 先生

- ・よい音源で、言葉なく感動できるものを、たっぷりと聴かせることが大切である。



次回の模擬授業では、

- 1時とのつながりを意識した上での、導入の発問をどうするか。
- 本時で、感受と知覚を結び付けること、と、曲のよさを見つけること、をどう展開していくか。
- 視聴覚教材は、どの形式の教材を、どのように、扱うか。
- オーディオの接続状態は良質な音を再現できるようになっているか。
- 学習カードの形式はどうするか。

を中心に検証する予定である。